

がん治療の今

■■■25

4カ月後に消失

がん治療の基本は、これまで手術療法、化学療法、放射線療法の三つが大きな柱ですが、今後は、これに「免疫療法」が加わることになりそうです。

免疫療法

療法は、この数十年間、ほとんど進歩が見られず、特に転移がある場合には、予後不良でした。しかし、カーター元

画期的な新薬が第四の柱

製鉄記念室蘭病院・前田征洋病院長

療は不要であると診断されています。この治療の際に使用されたのが、がん治療を根本から変えると期待されている画期的な新薬「免疫チェックポイント阻害薬」でした。実は、この新薬に関わる作用機序の解明に大きな役割を果たしたのは、日本人であり、中心的な仕事をされた京都大学の

昨年8月、カーター元アメリカ大統領が自らのがんを公表しました。肝臓の腫瘍を切除した際、皮膚がんの一種・悪性黒色腫(メラノーマ)と診断され、さらに、脳に4カ所もの転移も見つかりました。悪性黒色腫の治療後には、もうがんの治療

本庶佑名誉教授は、ノーベル賞の有力候補ともいわれています。健康な人でも、毎日約3千個もの異常細胞(がん細胞)が生まれ、免疫細胞がこれを排除して、がんは発生しません。免疫細胞が、身体の中に発生しているといわれていますが、これを下りンパ球などの免疫担当細胞が攻撃し、がんの発生を抑制しています。

免疫逃避と呼ばれるメカニズムで、この「ブレーキ」を外すことで、免疫本来の力を発揮できる。最新の治療法は、がんに対する免疫療法は、数十年前から試みられてきましたが、これまで、免疫を高めようとする「アクセラ」のみが主体で、がん細胞

黒色腫に加え、最近、肺がん(非小細胞がん)にも保険が適用となりました。さらに、さまざまながん保険に加入するようになり、現在、数多くの臨床試験が進行しています。ただ、免疫チェックポイント阻害薬にも少なからず副作用があり、特に糖尿病や自己免疫疾患などにも注意が必要とされています。

最新のがん免疫療法
これまで — 新しい

免疫の力を高める
免疫本来の力を活用

今後のがん治療

手術	化学療法	放射線	免疫療法
----	------	-----	------

緩和・支持療法

「今後のがん治療」は、従来の手術、化学療法、放射線の3本柱に、「免疫療法」が加わった4本柱に変わるとい

「今後のがん治療」は、従来の手術、化学療法、放射線の3本柱に、「免疫療法」が加わった4本柱に変わるとい

編集後記

製鉄記念室蘭病院の前田征洋病院長は、「がん」をテーマにした市民講演会を通じて、機会あるこ

記事が「羅針盤」の役割を果たせれば

記者の親族をみて、な病氣だ。父母に義父、祖父母、おじ・おばが、30代から80代までの幅広い年齢層もろここのことを目的とした

がんの治療は日進月歩で、10年後には今回連載された内容かつ、さらに発展した治療法が登場していることだろう。ただ、現在、主流的に行われているがん治療が、西胆振地域でも完結できる現状を、企画記事を通じて多くの人に知ってもらえれば、いいと思う。もし「あなたががん」

と診断され、治療などに臨む際、この企画記事が「羅針盤」としての役割を果たし、「がんは治る(治せる)病氣」とする考えの普及に役立つことになれば、一と切に願う。今回の連載に全面的にご協力をいただいた製鉄記念室蘭病院の皆さま、ありがとうございます。(松岡秀臣)